

専門知識向上を目指す

全国指導員学校東北会場



運営指針について講演する柏女霊峰淑徳大学教授

学童保育指導員の専門知識向上を目指す、全国学童保育指導員学校東北会場が7月7日、宮城県仙台市で開かれ、各県の指導員ら746人（岩手県からは190人）が参加しました。
仙台国際センターでの全体講義では「学童保育の動向と放課後児童クラブ運営指針」と題し、淑徳大学総合福祉学部の柏女霊峰教授が講演を行いました。柏女教授は市町村が条例を制定する上で国が示した基準「放課後児童健



岩手県学童保育連絡協議会
〒020-0122
盛岡市みけがけ3-38-20
岩手県青少年会館内
Tel・Fax 019-681-0651

国会で請願署名採択

学童保育拡充・子育て支援

全国連協の呼びかけで、取り組んだ「学童保育を拡充し、子育て支援の充実を求める請願」は6月26日に衆参両院の本会議で採択されました。この署名は全国

ひなこ衆議院議員（自民・東北比例）小沢一郎衆議院議員（国民民主・岩手3区）木戸口英司参議院議員（国民民主・東北比例）、階猛衆議院議員（無所属・岩手1区）の4人。併せて国会に提出されていた「従うべき基準を堅持する請願」37万8581筆（うち岩手県分は2万508筆）は、審査未了となりました。

全育成事業の設備及び運営に関する基準」の原案を策定した社会保障審議会の専門委員会の委員長を務めており、基準策定の経緯や運営指針の内容を解説しました。

児童福祉法で定められている支援員配置基準が「従うべき基準」から「参酌すべき基準」になることについて「放課後児童クラブは遊びと生活の場であり、子ども一人ひとりの過ごし方を大事にするのが育成支援だ。支援員が1人になれば、こうした育成支援の理念から、かい離することになる」と警鐘を鳴らし、「参酌基準と違う（支援員が1人でも可とする）基準を定める自治体は『なぜ1人でも大丈夫なのか?』という説明責



任を負うことになる」と指摘しました。

午後は宮城教育大学で11のテーマで分科会が開かれました。「学童保育と指導員をめぐる情勢と課題」の分科会では全国連協の千葉智生事務局次長の講義の後、グループ討議が行われ、参加者が学童保育の運営で苦労している点、工夫している点などについて情報交換を行いました。

指導員学校分科会感想

貧困・虐待と学童保育の役割

永洞 清（北上・北上南学童保育所）

貧困・虐待など子育て家庭を取り巻く、厳しい情勢と、生活の場としての支援の手立てを学ばせて頂いた。心理的虐待の増加に驚くとともに、我が子を思っている教育虐待は子を追い詰めている認識が低く、多数が潜在しているのではないかと、困り感を抱えた保護者が思いを吐露できるような信頼関係を築くには、日頃の伝え合いを積み重ねていくことが重要である事を再認識するとともに、毎日帰りたいと思える学童づくり、

障害児とともに育ち合う生活づくり

藤澤 菜美恵 (滝沢・菓子学童クラブ第二)

この分科会で障害をもつた子への対応について知ることができました。私が一番心に残っていることは「ダメ」より「〇〇してみよう」と声掛けをすることです。振り返ってみると障害のある子に限らず、子どもたちに「ダメ」と使いがちななと思いました。「ダメ」には、どうしたらいい

かという情報が含まれていないので肯定的な声掛けが大事だということを学びました。また、保育室の中の工夫として1日の流れを紙に書くこと、その中でも文字だけではなく絵や写真があるのと良いということを知りました。確かに文字だけでは見づらいことでも絵や写真

子どもの気持ちに気づく

阿部 脩平 (花巻・宮野目学童クラブ)

この分科会を受講して、まず、アタッチメントは愛着と訳されているが、違うことを知りました。アタッチメントには「安心」「とらわれ」「恐れ」「怒り拒否」「引つ込み」「無秩序」の6つの型があつて、それぞれに合った対応があることを知ることができました。型を知ることが子どもへの対応もしやすいと思

いました。一つ印象に残っているのは「そういうことをすると遊んでもらえなくなるよ」などとその子にとつてのデメリットを伝えることにより、改めるきっかけになります。講師の足立智昭先生が実体験を踏まえながらお話しをしてくださったのでイメージが湧き、自分の学童でも、子どもたちとより良い関係を築いていけるようになればと思います。

あつという間に時間が過ぎ、最後までうなずいて聞いてしまう講義内容でした。

があることで柔らかく見えるし、子どもたちにも分かりやすくなるなと思いましたが、私は障害児についての話を聞くのは初めてでしたが、参考になることがたくさんありました。障害児の特徴、関わりの工夫、声かけの仕方や保育室の工夫のなど、たくさんを知ることができて勉強になりました。今回学んだことをこれから

の保育に生かしていけるようにしたいです。

学童保育の安全対策・危機管理

日當 浩子 (久慈・久慈湊学童ひまわりクラブ)

学童保育の安全対策には、事故を未然に防ぐために環境保全や最新情報を入手する。指導員間で、役割分担を明確にして事前に模擬訓練をしておくこと。子ども自身も意見を出し合つて大

人と一緒に安心・安全をつくりあげていくことが大切だそうす。

学童保育の生活づくりで大切にしたいこと

川口 美穂子 (大船渡に「浜っ子クラブ」)

もうすぐ指導員となり1年になります。はじめの頃は子どもたちの名前を覚える、保護者の顔を覚える、一日の流れを覚える、子どもたちへの接し方、ケンカの対処法など、指導員の仕事に右往左往してきました。本当に、ただ子どもが好き、その想いだけが一番でした。

でも、今回の東北会場での基調報告、柏女先生の講義、川村先生の講座を受けて視野が広がりました。自分一人の目での指導員という仕事ではなく、「指導員としての自分」という風に考えるようになりました。うまく言えませんが、指導員は親や先生とは違う特別な大人であつて、学童は学校や家庭にはない特別な場所、いつもそんな場所であつて、子どもたちから信頼される大人でいられるよう、先輩方に教わりながらがんばりたいと思います。

子どもたちの声を聴いてあげられる指導員になりたい。それが今の一番の想いです。

学童保育とは

有馬 直哉 (盛岡・緑が丘学童保育クラブ)

指導員になつて初めての全国指導員学校は、自分にとって大変新鮮で貴重なお話を聞く場となりました。午後からの分科会では、講義していただいた高橋ちとせ先生から、学童保育業務を行う上で大切なことを具体例を交えながら、とても分かりやすく丁寧に伝えていただきました。

特に、効果的なほめ方、叱り方の講義では指導員が指導員、保護者が協力し連携を図り、学校や関係機関とも情報共有をしながら子どもたちの支援をしていきたいと思ひます。



その子のことを思つて、自信を持って「しかる」ことが大事だということに残りました。今回の指導員学校に参加してみて、全国には、多くの指導員の仲間がいて、毎日よりよい学童保育を目指して一緒に学んでいることを感じる事ができ、明日からまたがんばろうという気持ちになれました。